

Ⅱ 結果の概要

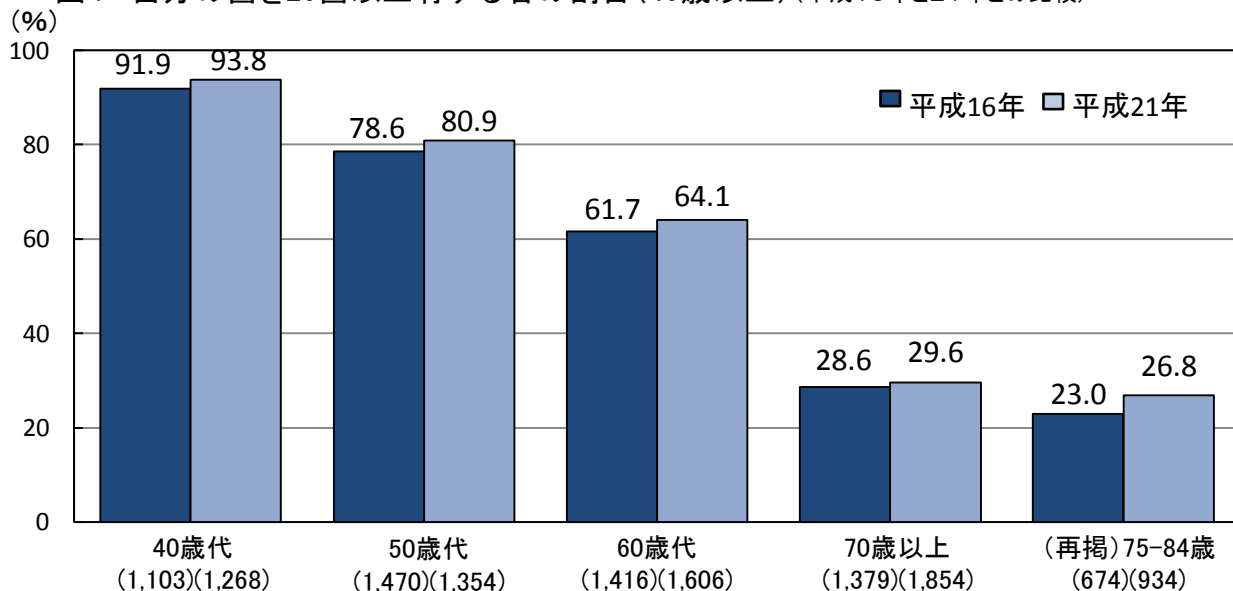
第1部 重点項目

第1章 歯の健康に関する状況

1. 歯の本数(20歯以上の割合)

自分の歯を20歯以上有する者の割合は、75歳～84歳で26.8%であり、平成16年に比べ3.8%多くなっている。

図1 自分の歯を20歯以上有する者の割合(40歳以上)(平成16年と21年との比較)



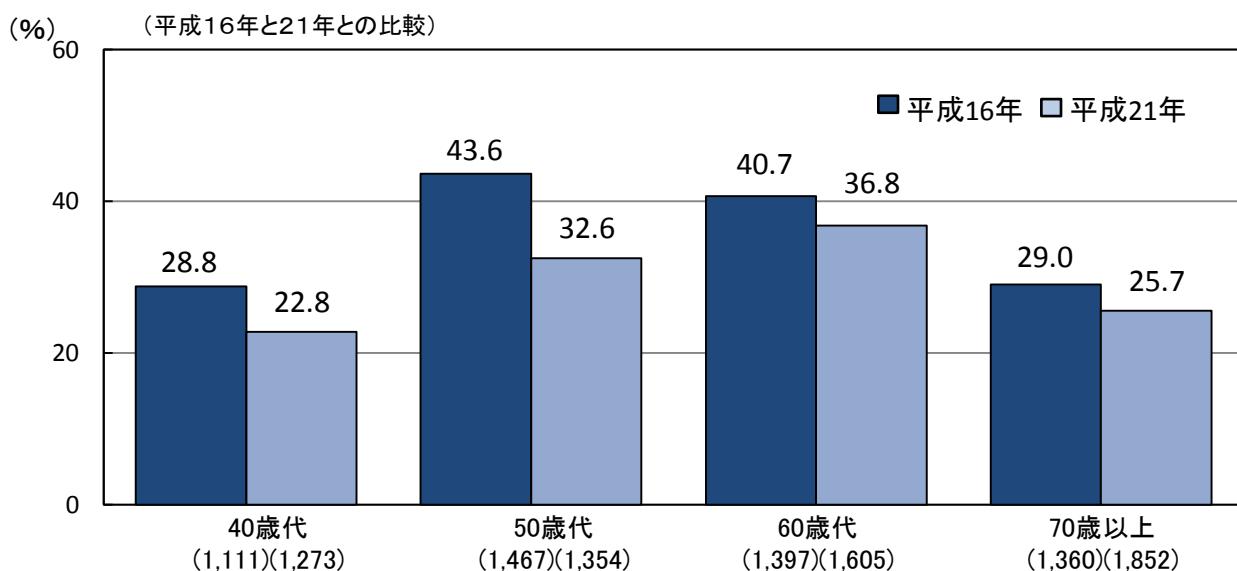
※「自分の歯は何本ありますか」の問いに対して、自己申告した歯の本数から算出

(参考) 「健康日本21」の目標
80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の増加
目標値：80歳(75～84歳)で20歯以上 20%以上

2. 進行した歯周炎の状況

進行した歯周炎を有する者の割合は、40歳代で22.8%、50歳代で32.6%であり、平成16年に比べ40歳代で6.0%、50歳代で11.0%少なくなっている。

図2 自己申告における進行した歯周炎の状況があると回答した者の割合(40歳以上)



※「健康日本21」における「進行した歯周炎」は「歯周疾患の検査であるCPI検査で4mm以上の深い歯周ポケットのあるもの」としている。
本報告では、「進行した歯周炎」を「歯ぐきが下がって歯の根が出る」「歯ぐきを押しと膿がでる」「歯がぐらぐらする」「歯周病(歯槽膿漏と言われ治療している)」のいずれか1つ以上に該当すると回答(自己申告)した者の割合

(参考) 「健康日本21」の目標
進行した歯周炎を有する者の減少
目標値：40歳 22%以下
50歳 33%以下

3. 過去1年間の専門家による支援と定期管理の状況

過去1年間に歯石除去、歯面清掃を受けた者の割合は、60歳代で45.8%であり、平成16年に比べ1.3%多くなっている。

過去1年間に歯科健診を受けた者の割合は、60歳代で41.4%であり、平成16年に比べ2.7%多くなっている。

図3-1 歯石除去、歯面清掃を受けたことがあると回答した者の割合(40歳以上)

(平成16年と21年との比較)

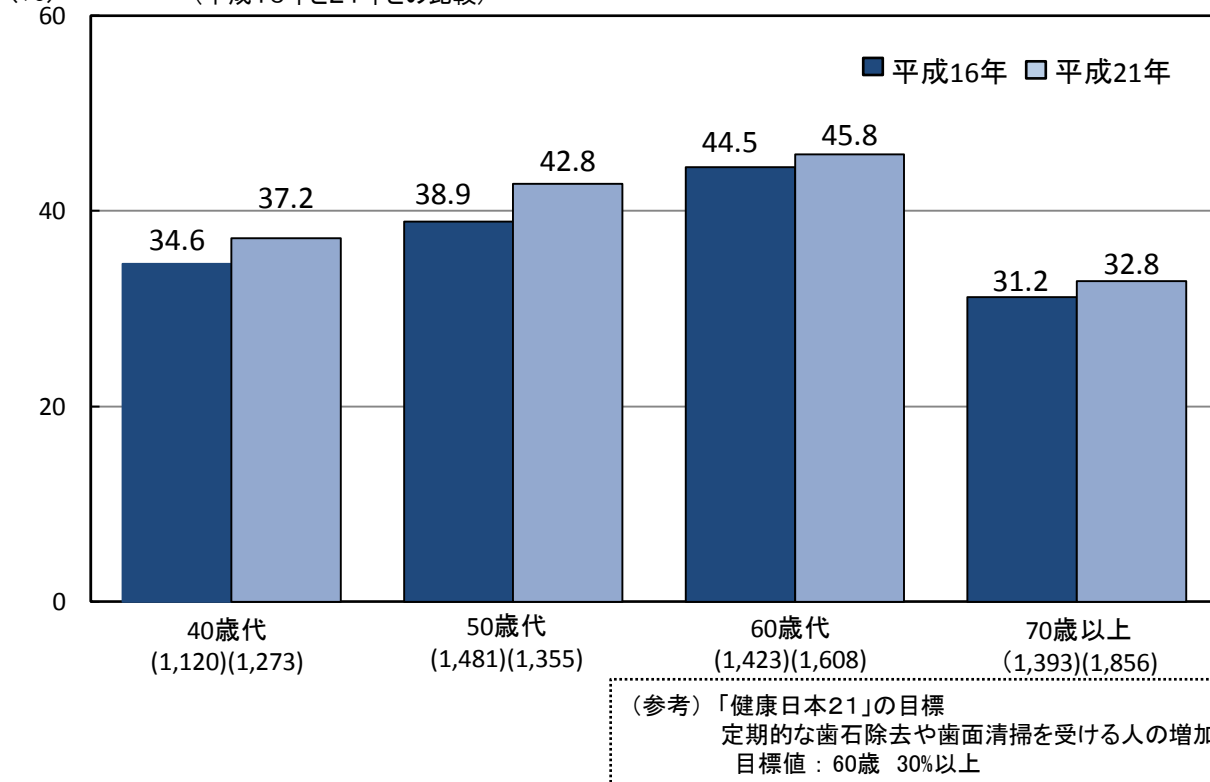
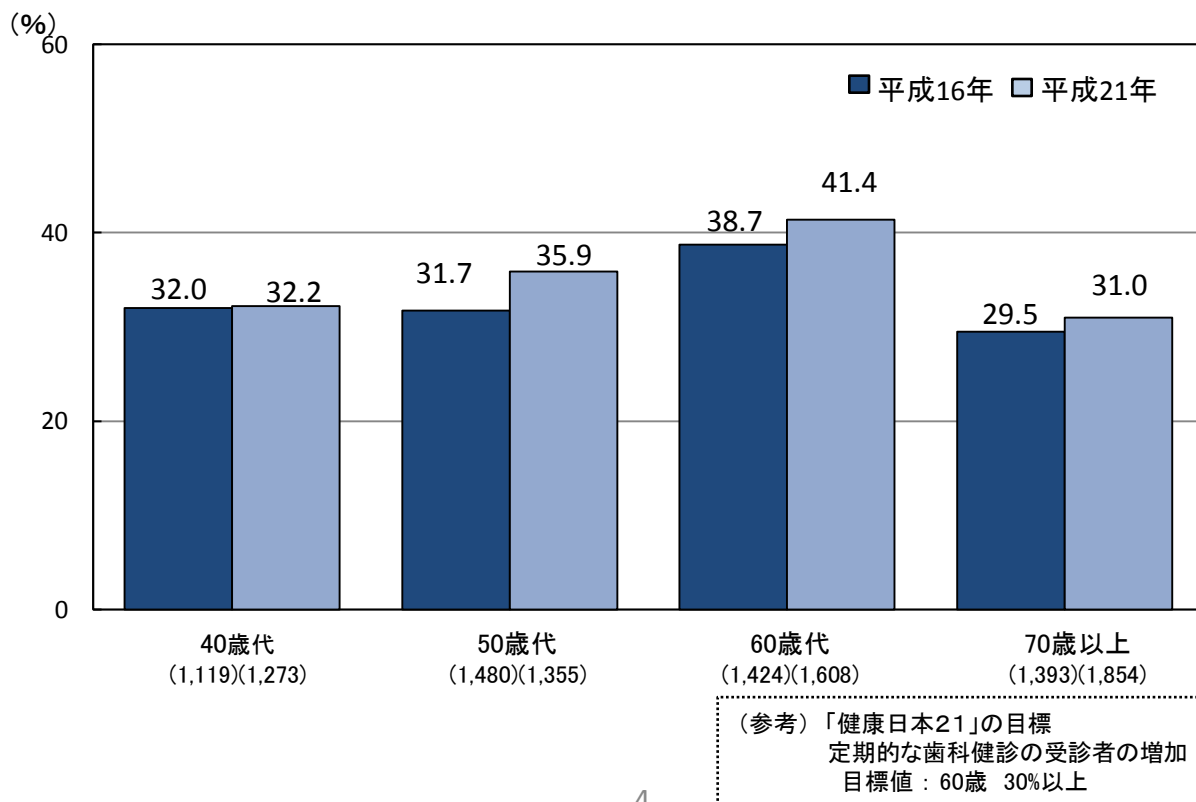


図3-2 歯科健診を受けたことがあると回答した者の割合(40歳以上) (平成16年と21年との比較)



4. 咀嚼の状況

かんで食べる時の状態について、何でもかんで食べることができると回答した者の割合は、70歳以上で59.2%であり、平成16年に比べ4.8%増加している。

75歳以上で自分の歯を19本以下しか有しない者では、かんで食べることに支障があると回答した者の割合が53.4%、食べる速さが遅いと回答した者が30.9%であり、ともに20本以上有する者に比べ多くなっている。

図4-1 何でもかんで食べることができると回答した者の割合(40歳以上)

(%) (平成16年と21年との比較)

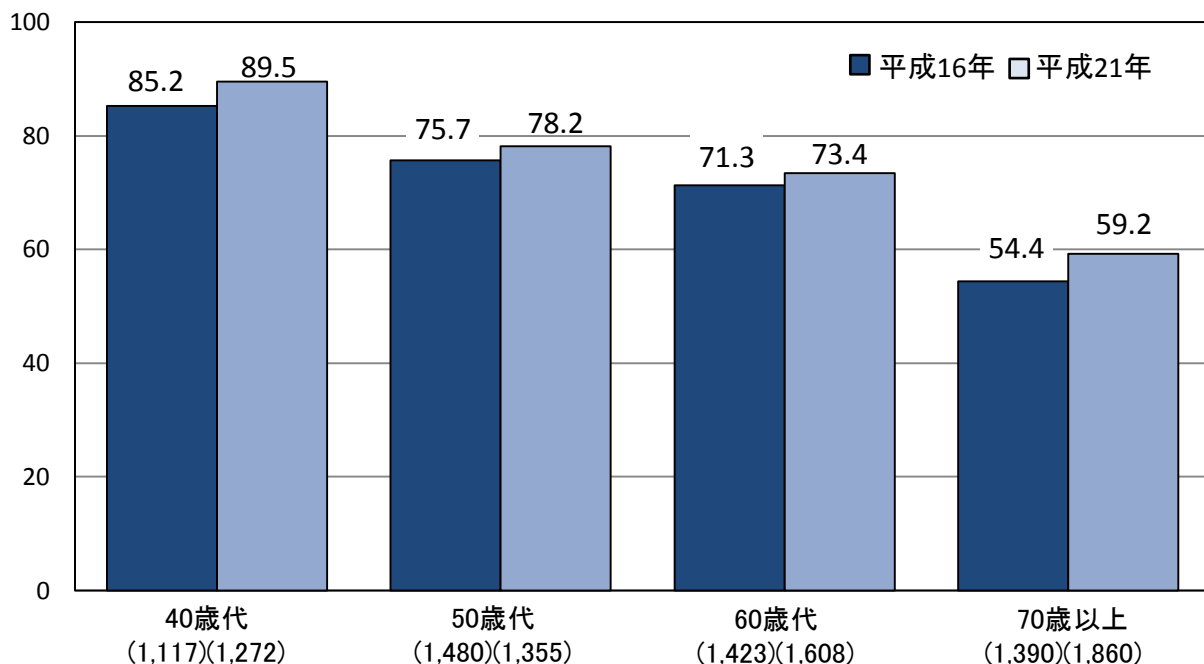


図4-2 歯の本数別 かんで食べる時の状態 (75歳以上)

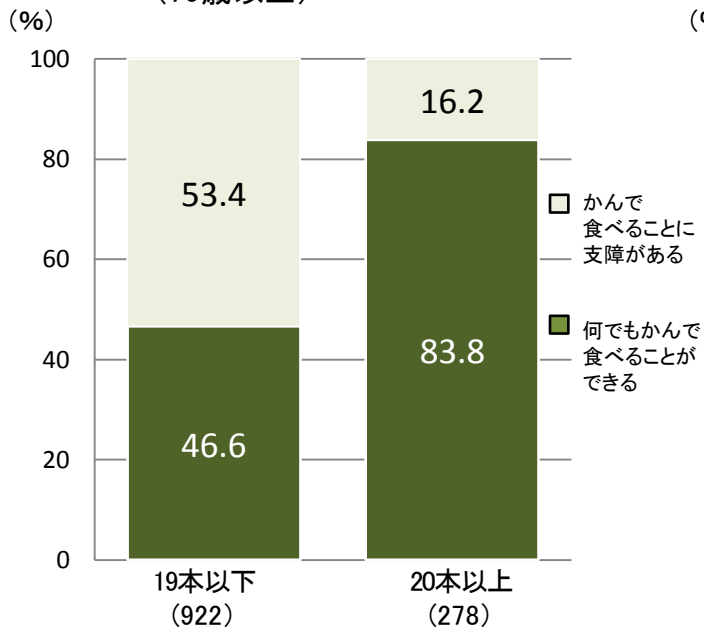
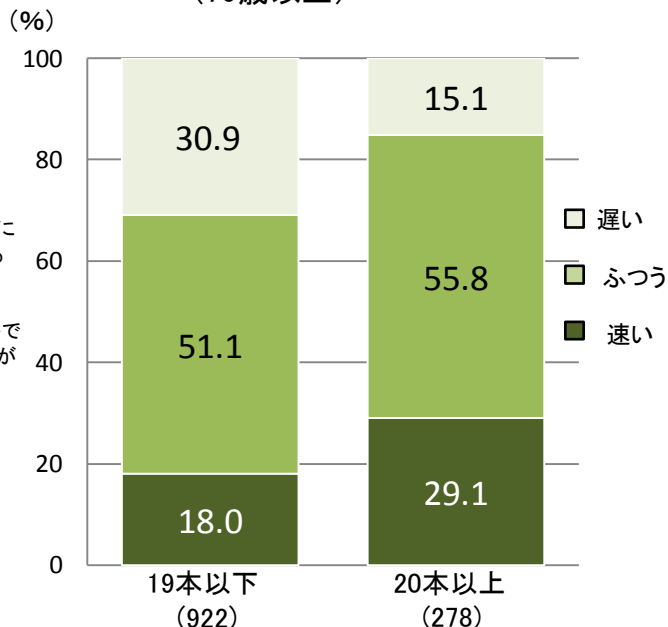


図4-3 歯の本数別 食べる速さ (75歳以上)



※かんで食べることに支障がある:

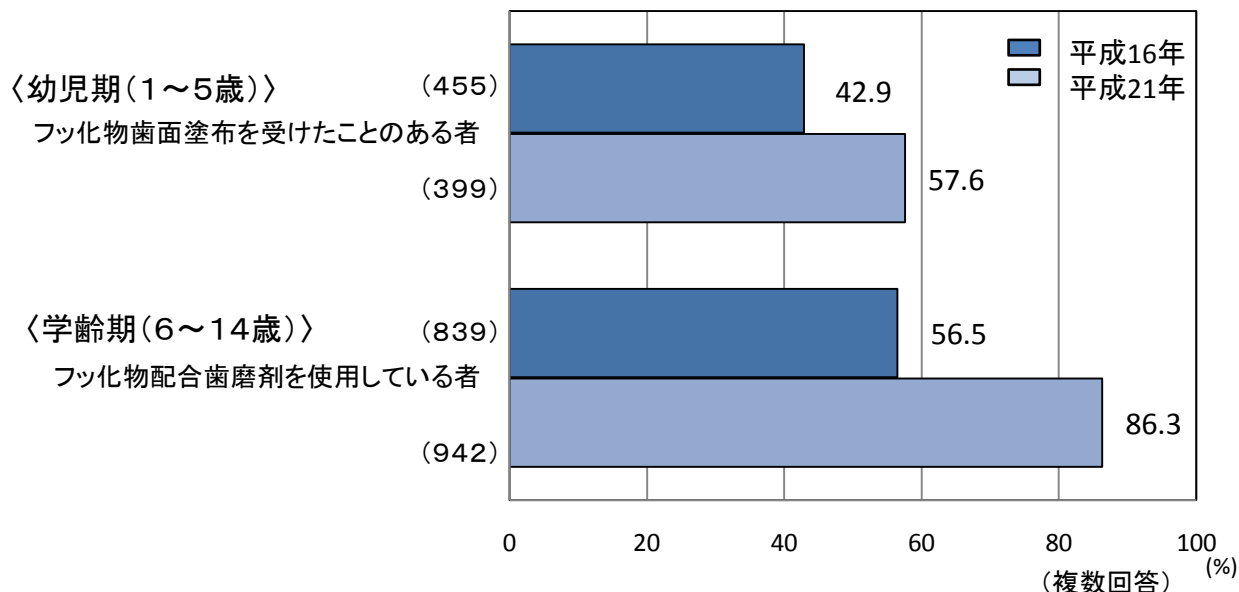
「一部かめない食べ物がある」「かめない食べ物が多い」「かんで食べることはできない」

5. 子どものむし歯の予防の状況

フッ化物歯面塗布を受けたことのある幼児の割合は、57.6%であり、平成16年と比べ14.7%増加している。また、フッ化物配合歯磨剤を使用している学齢期の子どもの割合は、86.3%であり、平成16年と比べ29.8%増加している。

一方、過去1年間に歯磨きの個人指導を受けた子どもの割合は、6～11歳で57.4%、12～14歳で38.0%である。

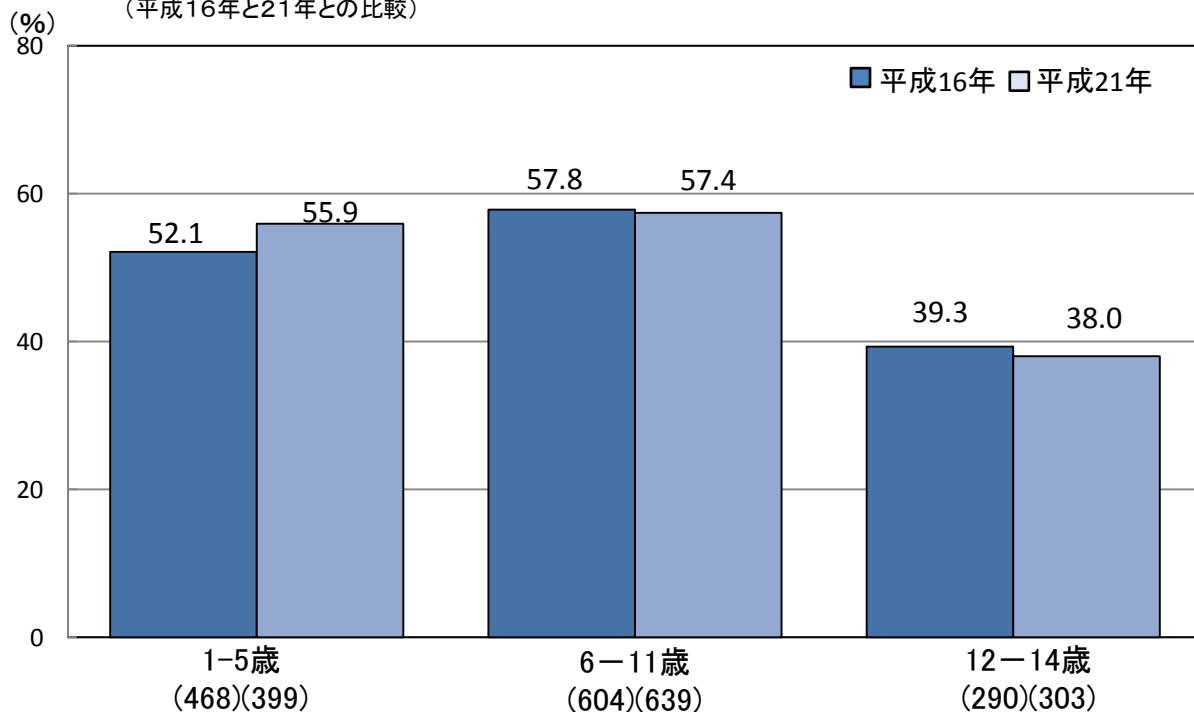
図5-1 むし歯の予防のために行ったこと(1～14歳) (平成16年と21年との比較)



(参考) 「健康日本21」の目標
 フッ化物歯面塗布を受けたことのある幼児の増加
 目標値：50%以上
 学齢期におけるフッ化物配合歯磨剤使用者の増加
 目標値：90%以上

図5-2 過去1年間に歯磨きの個人指導を受けたと回答した子どもの割合(1～14歳)

(平成16年と21年との比較)



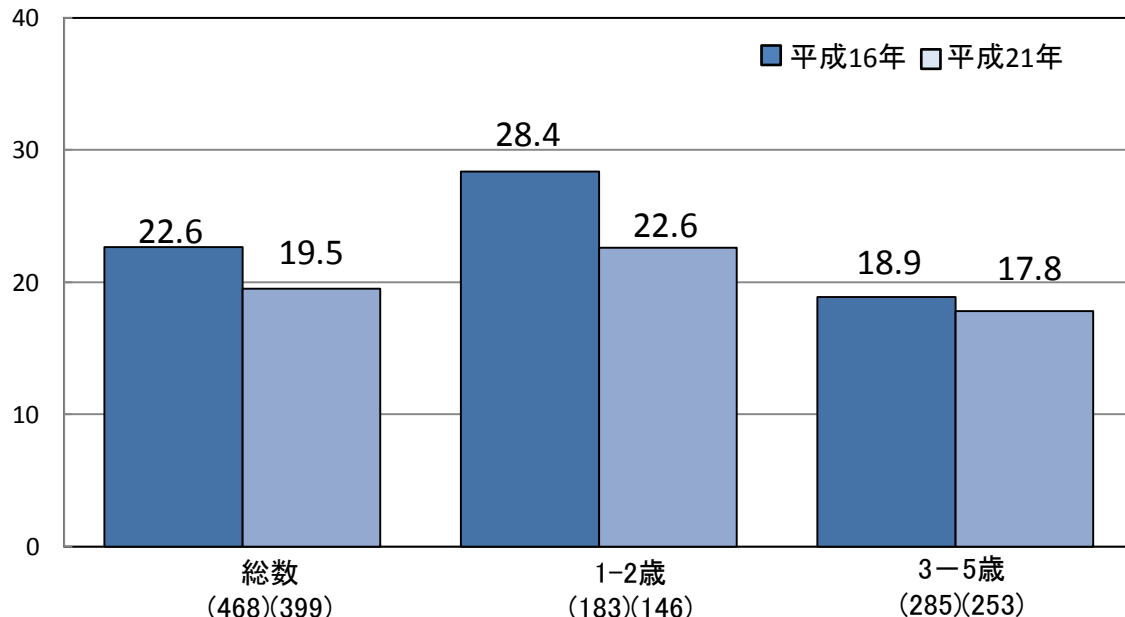
(参考) 「健康日本21」の目標
 個別的な歯口清掃指導を受ける子どもの増加
 目標値：30%以上

6. 幼児の甘味食品・飲料の飲食状況

間食として甘味食品・飲料を1日3回以上飲食する習慣を持つ幼児の割合は、19.5%である。また、保護者の間食の与え方別にみると、1日3回以上飲食する習慣を持つ幼児の割合は、保護者が注意していないと回答した幼児では24.7%であり、注意していると回答した幼児の15.0%に比べ多くなっている。

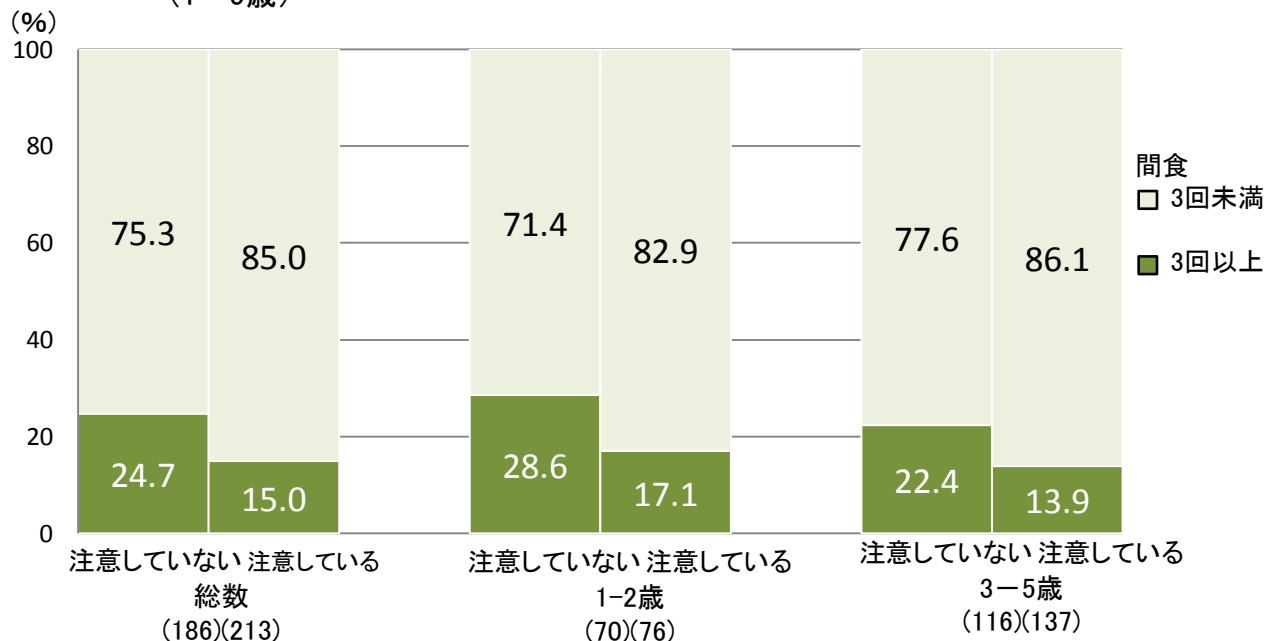
図6-1 間食として甘味食品・飲料を1日3回以上飲食する者(1~5歳)

(%) (平成16年と21年との比較)



(参考) 「健康日本21」の目標
間食として甘味食品・飲料を頻回飲食(1日3回以上の飲食)する習慣のある幼児の減少
目標値：15%以下

図6-2 保護者の間食の与え方別 間食として甘味食品・飲料を飲食する回数の割合(1~5歳)



※間食の与え方に注意している：「決められた時間に食べる」「遊びながら食べない」「夜歯を磨いた後には食べない」